
図書館からの、恋愛模様

久留間水樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

図書館からの、恋愛模様

【Nコード】

N6902Y

【作者名】

久留間水樹

【あらすじ】

ある日、ソフィア・ベネットは図書館でジョセフ・テイラーに出会う。ジョセフはソフィアにやたらと構うが、ソフィアはそれに苛々しっぱなし。そんな勝気少女ソフィアと美少年ジョセフの外国風恋愛小説。

第一話 ジョセフとの出会い

気味が悪いほどに晴れた空の中、私はうんざりと溜息をついた。

「暑い……」

暑いのは苦手。好きな季節は秋。

だから、今日だって折角の休みだし本当は出かけたくなんてなかった。

でも、あんまり家でゴロゴロしていると親に怒られる。だからできるだけ近場で、そして涼しい場所に行こう。

そういうわけで私は今図書館に向かっていた。

私の名前はソフィア・ベネット。市内の高校に通う、ちょっと勝気なのが欠点な、まあ普通の女子。

勿論ボーイフレンドなんて居ない。誰がこんな可愛くもない女子の相手をしてくれるというの？

図書館は空いていた。そういえば授業で図書館の利用率が下がっているとか習った覚えがある。

好都合。人がいっぱいいると騒がしいし不快になる。図書館はこれくらいの方がちょうどいい。

私は適当な本を選んで奥の方に座った。パラパラと本をめくる。本の内容はこんな感じ。

『とても可愛い女の子は男の子に恋をしました。二人には様々な試練が降りかかりましたが、二人は愛の力でそれを乗り越え、やがて結婚し、幸せに暮らしましたとさ』。

ありふれたお話。私は顔をしかめた。

こつこつというのは好きじゃない。典型的なハッピーエンドなんて、見ただけでむずがゆい。

私は溜息を付いて席を立った。これ、さつさと棚に戻そう。本を棚に戻し、それからまた違う本を探した。今度はもっとこつこつファンタジーで恋の要素が入ってなさそうなものを。

数分かけてじっくりと本を選ぶ。ハードカバーの本だ。少し重たいけど面白そう。

早速読もう、と思って席の方に目を移すと さつきまで居なかったものが見えた。

「……？」

私がさつきまで座っていた席に、男の子が寝ていた。

「……何、あれ」

思わずそう呟いてしまう。

場所をとっているという証拠にカバンを置いていたのだけれど、綺麗にどかされていた。

私は溜息を付いてその男の子が寝ているところへ近寄る。

「……ねえ」

チヨイチヨイ、と肩をつついた。

……微動だにしない。なによこれ。

「ねえったら」

チヨイチヨイ。チヨイチヨイ。

……動かない。

折角人目が少ない場所に座れてたのに。

ちよつとむかついたので、これみよがしに隣に座って本を広げた。

……あ、これ面白い。

私はすぐに本の世界に引き込まれていった。

「……ふう」

パタン、と本を閉じる。かなり面白かった。

久々にいいものを当てたみたいだ、とにやにやして席から立ち上がると、「面白かった？」と声がした。

「……？」

さつきまで寝ていた男の子が、私に話しかけてきた。

反射的に顔を見て 絶句した。

なによこの綺麗な顔は。見たことがない。

「面白かった？」

繰り返すように男の子は私に問う。私ははっとして顔をしかめた。

「……なんで？」

「嬉しそうな顔してたから」

ちよつとムツとする。人の顔勝手に見るんじゃないわよ。

「関係ない」

「俺、その本好きなんだよね」

男の子は私を無視して話しかける。……なんなの？

「あんたの趣味なんて聞いてないんだけど」
「うっわ冷てえ」

おどけたように男の子は笑った。
私はフン、と鼻を鳴らす。

「初対面の人に話しかけるような人に優しくする意味なんてあるの？」
「？」

「初対面？」

何故か吃驚された。それから、「あちゃー」とうめき声が聞こえる。

「俺、一応同じ高校」

「……クラスメイトじゃないんでしょ？」

「でも、隣のクラスだし。普通”この人見かけたことあるなー”とかねえの？」

「そついつ自意識過剰はやめて頂戴」

もう無視しちゃえ。そう思ってくるりと背を向けようとしたら、
ぐい、と腕をつかまれた。

「……警察呼ぶわよ？」

「これしきで警察呼ばれちゃたまないな」と、またおどけたように笑う。

私はくしゃくしゃと髪の毛をかいた。めんどくさい。からかって
いるのならやめて欲しいところね。

「何よ、まだ何か用があるの?」

「うん。どうせ暇なんだろう?どっか遊びにいこうぜ」

私はさっきよりも強く顔をしかめた。

「デートのお誘いってわけ?」

「そういふこと」

私は呆れたようにハツと笑った。

「冗談じゃない。」

「残念だけど、断らせていただくわ」

男の子は本気で驚いたみたい。綺麗な蒼い目をまん丸にしている。

「何でだよ」ちょっと怒ったような声。

「急に誘いをかける人なんて、私の趣味じゃないの」

「ふーん、それは残念だな」

「そう、残念なの」

じゃあね、と言おうとして先を越された。

「俺、ジョセフ・テイラーって言っただ。よろしく」

「……いきなり自己紹介なんて、わけわかんないわ」

「俺も名乗ったんだから君も名乗るべきだろ?」

「もうっ」私は嘆息した。この男 ジョセフには、言葉が通じないの? 「私はソフィア・ベネット。というよりあんだ、私のこと知ってるんなら名前だって知ってるんじゃないの?」

「さあね」

ジョセフは首をすくめた。

「ソフィアか、いい名前だ」

「それはどうも」

そろそろ解放してくれないのかしら、とイライラしたようにキツと睨みつけると、「おおこわ」と言ってジョセフは私の手を放した。

「じゃあ、さようならジョセフ」

「また明日な、ソフィア」

私はムツとして言い返す。

「明日は絶対返事なんてしてやらないんだから！」

「それはどうかな」

私はズンズンと怒ったように図書館から出ていった。

これが私とジョセフの、最悪な出会いだった。

第一話 ジョセフとの出会い（後書き）

初めての恋愛小説なので、ドキドキしっぱなしです（笑 うまくか
けるかなあ…。感想とか頂けたら嬉しいです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6902y/>

図書館からの、恋愛模様

2011年11月20日20時22分発行